

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人兵庫教育大学

1 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会的要請に応えるため、「現職教員に対する専門職として高度な専門性と実践的指導力の育成」「実践力と人間性に優れた新人教員及び心理専門職の養成」「学校教育に関する理論と実践を融合した研究（教育実践学）の推進」「教員養成・研修の先導的モデルの構築」「教育研究成果の発信」を使命としている。第3期中期目標期間においては、教員養成・研修の高度化を最重要課題とする中核的な機関として、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を行うことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、教育の内部質保証体制の構築を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 重点的な取組の一つである教師力養成特別演習では、教師としての基礎的な知識・技能を定着させるとともに、学校現場の現状についての理解及び教師としての実践的指導力をより深めることを目的にして、「場面指導」や「集団討論」などを取り入れたより実践的な形式での講義や演習を学部3年次生対象に多数実施するほか、平成31年4月に「教職セミナー1dayキャンプ」を実施しており、講演、討議の実践等を通して、集団生活の中で相互の人間的交流を深め、これからの就職への意識の高揚を図ることを目的としており、42名が参加している。（ユニット「全国最大規模の教職大学院をさらに拡充し、卓越教職大学院へ」に関する取組）
- 連合学校教育学研究科共同研究プロジェクト「現代的学校教育問題への効果的な対応が可能な教員・臨床心理士の養成研究 - 性の多様性に関する国際研究と価値観の変容研究」（プロジェクトT）においては、書籍出版4冊、雑誌論文発表6件、学会発表11件（うち国際学会4件）等の成果公表を行うとともに、プロジェクト成果として出版した「LGBTQ+の児童・生徒・学生への支援」は、教員及び臨床心理士の指針となる書籍として活用されている。（ユニット「教師教育の実践と研究における全国拠点（ナショナルセンター）並びに地域拠点（リージョナルセンター）」に関する取組）

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

・ 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 女性の活躍・男女共同参画 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ マトリクス型の事務組織の設置

平成30年12月に開設した教員養成・研修高度化センターを全学的に支援するために、令和元年8月1日付けで事務組織の改編を行い、教員養成・研修企画室を新設している。この組織の特徴は、マトリクス型の事務組織であり、担当職員は教員養成・研修企画室と既存の組織とを横断して業務を行うことで同センターの各部門を支援しており、プロジェクト実施のために既存の課室から職員を集めて横断的な組織とすることで、縦割り組織の弊害を解決してプロジェクトの機動性を高めている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**(理由)** 年度計画の記載 5 事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

評価の充実 情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**(理由)** 年度計画の記載 3 事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 教育の内部質保証体制の構築

教育改善推進室において、全学的な教育研究活動等の改善状況について点検及び評価を行い、その評価結果を改革・改善につなげることを通じ、恒常的かつ継続的に教育の内部質保証及び向上に取り組むため、「国立大学法人兵庫教育大学における教育の内部質保証に関する方針」及び「兵庫教育大学における教育の内部質保証体制」を令和元年度に整備し、学長を教育の内部質保証に係る責任者とし、教育改善推進室、評価委員会、IR・総合戦略企画室が連携して、課題の抽出を行う評価体制を構築している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**(理由)** 年度計画の記載 7 事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 教員養成スタンダード（大学院）に基づく学生の力量形成の状況

大学院修了者を対象とした教員養成スタンダード（大学院）に基づく学生の力量形成の状況を分析し、大学院での学修成果を可視化するための取組を行っており、その成果を『教員養成スタンダード（大学院）に基づく学生の力量形成の状況』としてまとめており、各コースの求める人材像に基づく学生の学びの状況を確認することで、各コースの専門性を反映した力量形成を促すカリキュラムや研究指導に活かしている。

○ 「乳幼児期の防災教育とESDに関する研究」の取組

「乳幼児期の防災教育とESD に関する研究—環太平洋におけるSDGs を踏まえて—」と題して、大学の幼年教育・発達支援コースの教員3名が実施する研究プロジェクトに、附属幼稚園教諭3名、ニュージーランドと台湾の研究者2名を加えて、就学前教育における防災モデル構築の研究を展開している。